

第2次静岡市生物多様性地域戦略進捗管理一覧表

総合目標																
目標		実施内容		成果指標		目標値(2030年度)		SDGsとの関連						担当課		
生物多様性の保全		生物多様性の保全の評価		生物多様性の保全を評価するための評価方法の確立及び評価実施		評価の実施								環境共生課		
生物多様性の主流化		生物多様性に配慮した行動の推進		環境に関するボランティア活動参加割合		(R6～27.0%※市第4次総合計画に据える) R4現状値26.2%(静岡市市民意識調査より)								環境共生課		
リーディングプロジェクト																
【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね原順(目標値の8割以上達成) △:要対策 ×:未達成 -:中止																
プロジェクト名	No.	前戦略からの継続性	事業	事業目的	指標名	最終目標(2030年度)	方向性	令和3年度 実施状況	令和3年度 評価	令和4年度 実施状況	令和4年度 評価	令和5年度 実施状況	令和5年度 評価	戦略との 主要な関係	SDGsとの関連	担当課
①南アルプス地域保全・再生	1	新規 (既実施事業)	シカの食害対策推進による高山植物の保護	・防鹿柵設置及び維持管理により、ニホンジカによる食害等から高山植物を保護する。	南アルプス主要地域(千枚小屋周辺)の高山植物種数	15種/年	維持	13種 (33種※) ※コドラート内 全植物の種数	○	13種 (37種※)	○	14種 (38種※)	○	戦略1ー方針1	 	環境共生課
	2	新規 (既実施事業)	南アルプスにおける自然環境・生態系保全	・南アルプスユネスコエコパーク(生物圏保存地域)登録地内の、動植物の生育・生息状況調査を実施し、自然環境の変化を把握する。 ・中央新幹線建設事業に係る自然環境への影響を把握する。	南アルプス動植物環境調査の実施と公表	実施	維持	実施	◎	実施	◎	実施	◎	戦略1ー方針1	 	環境共生課
	3	新規 (既実施事業)	高山植物保全活動の担い手育成	・高校生を対象に事前学習会や現地体験学習を実施し、高山植物に取り組む人材の育成と環境保護意識の向上を図る。	高山植物保護セミナー参加者数	20名/年	維持	67名 ※オンライン開催	○	9名 ※現地開催	△	11名 ※現地開催	△	戦略1ー方針1	  	環境共生課
②里地里山保全・活用	4	継続	放任竹林対策の継続的な実施	・放任竹林対策推進事業を継続的に実施する団体に対し、5年間の協定に基づき補助金を交付することで良好な里地里山環境の整備を推進する。	維持管理協定締結団体数	1団体/年	維持	5団体	◎	1団体	◎	4団体 ※新規2団体 更新2団体	◎	戦略1ー方針2	 	環境共生課
	5	継続	里地里山における保全・再生活動の推進	・竹破砕機の貸出により保全活動団体を継続的に支援することで、団体の活動の促進と環境を固める。	竹破砕機延べ貸出回数	80回/年	維持	78回	○	81回	◎	63回	△	戦略1ー方針2	  	環境共生課
	6	継続	放任竹林の整備推進	・行政によるモデル事業として保全活動団体で対応が困難な急傾斜地等の放任竹林を伐採し、その後の維持管理を保全活動団体が行うことで景観や生物多様性の回復を図る。 ・R6～放任竹林整備事業を実施する団体に対し、事業の実施に必要な消耗品等を支給することで、団体の活動の促進と継続を図る。	放任竹林の伐採面積 (R6～放任竹林整備のための消耗品等支給団体数)	1.0ha/年 (30団体/年)	維持	0.8ha (28団体)	○	0.8ha (24団体)	○	0.7ha ※2月実施予定 (36団体)	△	戦略1ー方針2	  	環境共生課
	7	継続	緩衝地帯の整備推進	・里地里山に見られる薪の刈払いや、耕作放棄された茶の伐採等により、野生鳥獣からの農作物被害を軽減するとともに、植物や昆虫の生育・生息場所となる里山環境を整備する。	緩衝地帯の整備面積	7.5ha/年 ～ 0.5ha/年	維持	薪 0.71ha 放任茶園0.87ha 竹林伐採0.44ha	◎	薪 7.81ha 竹林伐採0.59ha	◎	薪 3.01ha 放任茶園0.79ha	○	戦略1ー方針2	  	中山間地振興課
③外来種対応の適正化推進	8	継続	特定外来生物調査・対応	・現地調査及び情報収集を行い、特定外来生物の生息状況を把握する。 ・市民からの発見情報に基づき、調査及び早期対策を実施し、特定外来生物の生息域拡大を防ぐ。	特定外来生物の調査・対応実施回数	15回/年	維持	24回	◎	18回	◎	24回	◎	戦略1ー方針3	 	環境共生課
	9	新規 (既実施事業)	市民協働の特定外来生物調査・駆除	・市民と協働して特定外来生物の調査・駆除を実施することにより、広範囲かつ継続的な駆除の体制を整備する。	市民協働の調査・駆除回数 (「タケノコ」調査・「オオカサガ」駆除)	3回/年	向上	3回	◎	3回	◎	4回	◎	戦略1ー方針3	 	環境共生課
	10	新規 (既実施事業)	特定外来生物の情報収集・発信	・外来生物に関する情報の発信等により、市民の生物多様性への理解の推進を図る。	しげたんけんてちょうの閲覧数	35,000件/年 (71,000件/年)	向上	53,257件	◎	55,523件	◎	81,466件	◎	戦略1ー方針3	  	環境共生課
④まちなか自然ふれあい活動推進	11	新規 (R4～実施予定)	まちなかにおける自然ふれあいの推進	・まちなかでイベントを開催することで、自然を身近に感じるとともに、市民の生きものに對する興味を引き出す。さらに、保全活動団体等と連携し、活動の場の提供や生きものの生息情報の蓄積を図る。	セミの抜け殻調査参加者数	20名/年	維持	体制整備 (40名)	○	体制整備 (35名)	○	体制整備 (43名)	○	戦略2ー方針1	  	環境共生課
	12	新規 (既実施事業)	まちなかにおける環境保全活動の推進	・環境美化ボランティアによる安倍川・葦科川・興津川での清掃活動を通して、河川環境の保全と河川環境に対する市民意識の向上を図る。	河川環境アドプトプログラムの登録団体の延べ活動回数	100回/年	維持	65回	△	83回	○	50回	△	戦略2ー方針1	 	環境共生課
	13	継続	麻機遊水地における自然ふれあい活動の推進	・麻機遊水地において自然観察会やイベントを実施することで、市民が身近に自然を感じる機会を創出する。	麻機遊水地における自然観察会の実施回数	10回/年	維持	9回	○	11回	◎	10回	◎	戦略2ー方針1	  	緑地政策課
	14	継続	地域団体等への緑化支援	・市民の身近にある自治会等の花壇づくりを支援し、植物や植物に集まる生きものへの関心喚起を図り、また身近な場所での生きものとの触れ合いの場を創出する。	花苗等配付による緑化支援団体数	延べ900団体/年	維持	832団体	○	802団体	○	769団体	○	戦略2ー方針3	  	緑地政策課
⑤幼児期からの環境教育推進	15	新規 (既実施事業)	環境学習指導員の派遣	・こども園等に環境学習指導員を派遣することで、環境教育の実践に資する保育者等の負担を軽減するとともに、子どもたちの自然に対する興味を引き出す。	幼児を対象とした学習会の指導員派遣回数	20回/年	向上	延べ33回 (25施設)	◎	延べ38回 (28施設)	◎	延べ26回 (19施設)	◎	戦略3ー方針1	 	環境共生課
	16	既存	沼上資源循環学習プラザにおける環境学習の実施	・植物を利用した体験学習を通して、次世代を担う子どもたちの身近な植物に対する関心喚起と、環境保全意識の高揚を図る。	環境学習の実施回数	50回/年	維持	76回	◎	45回	○	85回	◎	戦略3ー方針1	  	ごみ減量推進課
	17	既存	環境大学におけるリーダー育成	・環境学習を推進するために、環境全般について専門的な知識を習得し、身の回りの環境問題の解決に向かって主体的に取り組む環境学習リーダー・学習支援スタッフを育成する。	環境大学の修了者数	15名/年	維持	20名	◎	25名	◎	24名	◎	戦略3ー方針1	  	ごみ減量推進課
	18	新規 (R4～実施予定)	こども園等に対する環境教育情報の提供	・生物多様性について学ぶ時間のない先生たちに、学んでもらうためのきっかけをつくることで、普段の活動が生物多様性につながっていることを認識してもらい、日々の活動に活かしてもらう。	生きもの元気通信の発行回数 (R6～こども園等への環境教育の実施回数)	4回/年	維持	体制整備	○	4回 (6回)	◎	1回 (3回)	△	戦略3ー方針1	  	環境共生課
⑥環境モニタリング等の市民参加推進	19	新規 (既実施事業)	水生生物のモニタリング調査	・市民調査員による河川の水質調査を通して、市民の身近な河川環境に対する関心喚起と環境保全意識の高揚を図るとともに、市内の水生生物の生息状況を把握する。	水のおまわりさん参加者数	1,000名/年 (1,200名/年)	維持	1,449名	◎	931名	○	977名	○	戦略4ー方針1	  	環境共生課
	20	新規 (既実施事業)	自然観察会における生きもの調査	・東海大学との共催により自然環境学習会を実施し、身近な自然環境への関心喚起と環境保全意識の高揚を図るとともに、生物生息状況の経年変化を調べる。	環境学習参加者数 (アライグマ、ゾウリ、海浜植物観察会)	100名/年	維持	43名 ※海浜植物観察会 参加者43名開催	△	78名 ※海浜植物観察会 参加者78名開催	△	96名	○	戦略4ー方針1	  	環境共生課
	21	新規 (R4～実施予定)	市民参加による生きもの調査	・簡単に判別できる身近な動植物を指標種とし、市民による生きもの調査を実施することで、市民の生きものへの関心喚起と環境保全意識の高揚を図るとともに、市内の生きもの生息状況の情報収集を行う。	市民生きもの調査員(仮称)の登録者数 (R6～市民主催の生きもの調査延べ参加者数)	300名/年	向上	体制整備 (28名)	○	体制整備 (38名)	○	体制整備 (125名)	○	戦略4ー方針1	  	環境共生課

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調(目標値の8割以上達成) △:要対策 ×:未達成 -:中止

リーディングプロジェクト	①南アルプス地域保全・再生	基本目標	南アルプスの自然環境・生態系の保全を推進し、地域資源や生態系サービスの基盤としての自然環境のすばらしさを広め、次世代の担い手を育成する。
--------------	---------------	------	--

No.1

指標名	南アルプス主要地域(千枚小屋周辺)の全高山植物種数			担当課		環境共生課	
指標値	15種/年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	シカの食害対策推進による高山植物の保護			前戦略からの継続性		新規(既実施事業)	
事業目的	防鹿柵設置及び維持管理により、ニホンジカによる食害等から高山植物を保護する。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略1－方針1	その他の関わり	戦略3－方針2／戦略3－方針3／戦略4－方針1			

指標の内容	定義	南アルプス千枚小屋周辺に設置した防鹿柵内における、植生調査での高山植物の確認種数を集計				
	概要	【実施主体】静岡市(環境共生課) 【事業内容】 ◆防鹿柵設置等 ①内容:既存防鹿柵の立上(約6,693㎡)、維持管理、冬期の撤去 ②場所:千枚小屋周辺 ③保護対象:オオサクラソウ(絶滅危惧種)等 ◆植生調査 ①内容:設置した防鹿柵内の植物の種数を調査 ②調査方法:専門家によるブラウン・プランク法での調査 ③調査時期:7～8月 ※高山植物保護セミナーの高校生も参加				



B 千枚小屋裏(②)
(斜面上部)

A 千枚小屋裏(①)

調査地点: 3地点(上図A～C) 調査範囲: 各地点5×5m
 調査回数: 年3回(6～8月) ※指標比較は8月下旬調査
 確認種内訳: 別紙のとおり

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		15種	15種	15種	15種	15種	15種	15種	15種	15種	15種
	実績	13種 (33種)	13種 (37種)	14種 (38種)							
	進捗	○	○	○	()内はコド	ラート内の全	植物の種数				

No.1 シカの食害対策推進による高山植物の保護

(1)R5年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R5年度実績評価の理由:計画の指標値の8割を達成しているため

◆防鹿柵設置

- (1)千枚小屋周辺(季節型)
 - 設置年:H25~H27年度、R4、R5年度
 - 範囲:6,693㎡
- (2)中岳避難小屋周辺(季節型)
 - 設置年:H26、H27年度
 - 範囲:189㎡
- (3)熊の平小屋周辺(常設型)
 - 設置年:H28、H29年度
 - 範囲:3.8㎡

◆植生調査

- (1)千枚小屋周辺防鹿柵:H25年度から毎年度実施
- (2)中岳避難小屋周辺:H28年度から毎年度実施
- (3)熊の平小屋周辺:R1年度から毎年度実施

(2)R6年度 of 取組内容・スケジュール

◆防鹿柵設置

- ・千枚小屋周辺、中岳避難小屋周辺の各防鹿柵の立上・撤去
- ・千枚小屋周辺、中岳避難小屋周辺、熊の平小屋周辺の各防鹿柵の維持管理
- ・千枚小屋周辺の既存防鹿柵を延長することによる拡大化

◆植生調査

- ・千枚小屋周辺、中岳避難小屋周辺、熊の平小屋周辺の各防鹿柵内の植生調査を実施

◆南アルプスの森づくりツアー

- 実施日:令和6年9月28日(土)~29日(日) 1泊2日 葵区井川、田代
- 参加者:静岡市内の小学4~6年生とその保護者
- 内 容:・ユネスコエコパークに登録されている南アルプス山麓にて、市民参加により、豊かな森を育む落葉広葉樹の種子の採取及び播種を行うとともに、大井川上流の自然環境について現地学習を実施する。(R5年度)
 - ・上記で育成した苗を、市民参加により南アルプス山麓に記念植樹する。

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- 高山植物保護セミナーの高校生も参加している。
 - ・市内高校の山岳部11名(※R5年度実績)
- 南アルプスの森づくりツアーで採取した種子からの育苗は、静岡大学、井川小中学校、井川地区の方、関係企業に依頼している。

(4)事業実施にあたっての課題

- ・植生調査による植物確認種数の集計は、千枚小屋周辺防鹿柵内の5m×5mのコドラート内のみを確認するため、柵内であってもコドラート外の植物は現状、種数に含まれない。これは毎年度の同地点同時期における同条件での経年変化を確認するためではあるが、種数のカウント方法等の考え方について整理する必要がある。
- ・植樹事業の継続と、民間への事業移行の検討

リーディングプロジェクト	①南アルプス地域保全・再生	基本目標	南アルプスの自然環境・生態系の保全を推進し、地域資源や生態系サービスの基盤としての自然環境のすばらしさを広め、次世代の担い手を育成する。
--------------	---------------	------	--

No.2

指標名	南アルプス動植物環境調査の実施と公表			担当課		環境共生課	
指標値	実施			時点	目標年度	方向性	維持
事業	南アルプスにおける自然環境・生態系保全			前戦略からの継続性		新規(既実施事業)	
事業目的	平成26年に登録された南アルプスユネスコエコパーク(生物圏保存地域)登録地内の、動植物の生育・生息状況調査を実施し、自然環境の変化を把握する。また、中央新幹線建設事業に係る自然環境への影響を把握する。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略1－方針1	その他の関わり	戦略3－方針2／戦略4－方針1			

指標の内容	定義	南アルプス動植物環境調査を実施し、調査データを公表する				
	概要	【実施主体】静岡市(委託業務) 【事業内容】 ①調査項目:植物、ほ乳類、鳥類、両生類、底生動物、淡水魚類等 ②調査方法:植生調査、目視調査、捕獲調査、環境DNA分析等 ③調査時期:5月～9月 ④調査地区:南アルプスユネスコエコパーク内 ※調査データを環境共生課ホームページで公表。 ※平成26年から調査を実施している。				



〈動植物調査の様子〉

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	実施							
	進捗	◎	◎	◎							

No.2 南アルプスにおける自然環境・生態系保全

(1)R5年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R5年度実績評価の理由:計画の指標値を達成したため

◆南アルプス動植物環境調査を実施

- ・H26年度から毎年度実施。
- ・環境省や静岡県が指定するレッドリスト掲載種等を指標種・重要種として、これらの種を重点的に調査している。

○各年度の調査項目

年度	調査項目
H26	植物、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、淡水魚類、昆虫類、菌類(7項目)
H27	植物、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、淡水魚類、昆虫類、底生動物(7項目)
H28	植物、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、淡水魚類、昆虫類、底生動物(7項目)
H29	植物、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、淡水魚類、昆虫類、底生動物(7項目)
H30	植物、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、淡水魚類、昆虫類、底生動物(7項目)
R1	植物、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、淡水魚類、底生動物(6項目)
R2	植物、哺乳類、両生・爬虫類、淡水魚類、底生動物(5項目)
R3	植物、哺乳類、両生・爬虫類、淡水魚類、底生動物(5項目)
R4	植物、哺乳類、両生・爬虫類、淡水魚類(4項目)
R5	植物、哺乳類、両生・爬虫類、淡水魚類(4項目)

(2)R6年度 of 取組内容・スケジュール

◆R6年度委託調査

- 調査項目:植物、哺乳類、両生・爬虫類、淡水魚類(4項目)
- 調査方法:植物相調査(植物)、捕獲調査・哺乳類相調査(哺乳類)、環境DNA調査(両生・爬虫類)、捕獲調査・DNA分析(淡水魚類)

◆南アルプス市民生きもの調査ツアー

- 実施日:令和6年7月20日(土)～21日(日) 1泊2日
- 場 所:胡桃沢、燕沢ほか
- 参加者:市民生きもの調査員
- 内 容:・市民の南アルプスユネスコエコパークの認知度、南アルプスの豊かな自然環境への関心を高める。
・事業者による新たな開発に対する環境配慮の取組への市民からの注目度を高める
とともに、自然環境保全の取組の参考とするよう事業者へ調査結果を情報提供する。
・認定した市民生きもの調査員の活躍の場を創出するとともに、スキルアップにつなげる。

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- ・市民向けに、市ホームページで調査結果を公表している。
- ・南アルプス市民生きもの調査ツアーはR5年度から新規で実施。

(4)事業実施にあたっての課題

- ・当面は現状維持を考えているが、予算上の問題から毎年度全項目の調査を継続して行うことはできないため、項目数を減らしつつ、調査する項目の内容について有識者を交えて精査する必要がある。
- ・市民調査の継続実施によるデータ蓄積及び蓄積したデータの活用方法の検討、調査精度の向上についての検討

リーディングプロジェクト	①南アルプス地域保全・再生	基本目標	南アルプスの自然環境・生態系の保全を推進し、地域資源や生態系サービスの基盤としての自然環境のすばらしさを広め、次世代の担い手を育成する。
--------------	---------------	------	--

No.3

指標名	高山植物保護セミナー参加者数			担当課		環境共生課	
指標値	20名／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	高山植物保全活動の担い手育成			前戦略からの継続性		新規(既実施事業)	
事業目的	高校生を対象に事前学習会や現地体験学習を実施し、高山植物に取り組む人材の育成と環境保護意識の向上を図る。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略1－方針1	その他の関わり	戦略2－方針2／戦略3－方針2			

指標の内容	定義	市内の高校山岳部の生徒を対象とした「南アルプス高山植物保護セミナー」の参加者数				
	概要	【実施主体】静岡市(環境共生課) 【事業内容】 ①学習内容:第1回学習会、現地体験学習、第2回学習会 (植生調査及び防鹿柵の維持管理) ②対象者 :市内高等学校の登山部 ③実施時期:7月～9月 ④実施場所:千枚小屋周辺 ⑤講師 :国県等の職員、NPO法人 等				



〈高山植物保護セミナーの様子〉

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
	実績	20名	20名	20名	20名	20名	20名	20名	20名	20名	20名
	進捗	67名 ※オンラインセミナー	9名 ※現地開催	11名 ※現地開催							

No.3 高山植物保全活動の担い手育成

(1)R5年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R5年度実績評価の理由:計画の指標値の8割に到達しなかったため

- ・平成25年度から市が主体となって、市内の高校山岳部の生徒を対象とした「南アルプス高山植物保護セミナー」を開催している。
- ・平成27年度までは防鹿柵の設置作業が中心だったが、平成28年度からは植生調査体験も加えた内容としている。

○ 参加者及び内容

年度	参加者	内容
H27	生徒23人、顧問・スタッフ等21人	荒天により初日予定の座学のみ実施
H28	生徒24人、顧問・スタッフ等17人	千枚、1泊2日×3回
H29	生徒29人、顧問・スタッフ等15人	千枚、2泊3日×1回
H30	生徒15人、顧問・スタッフ等12人	千枚、2泊3日×1回
R1	生徒15人、顧問・スタッフ等12人	千枚、2泊3日×1回
R2	生徒57人	オンラインセミナー
R3	生徒67人	オンラインセミナー
R4	生徒9人、顧問・スタッフ等13人	千枚、2泊3日×1回
R5	生徒11人、顧問・スタッフ等12人	千枚、2泊3日×1回

(2)R6年度 of 取組内容・スケジュール

◆南アルプス高山植物保護セミナー

(1)事前学習会

- 実施日:令和6年7月頃
- 内 容:南アルプスユネスコエコパークについて

(2)現地セミナー

- 実施日:令和6年8月23日(金)～25日(日) 2泊3日
- 場 所:千枚小屋周辺
- 参加者:静岡市内の高校生
- 内 容:防鹿柵の新規立ち上げ及び、植生調査

(3)事後学習会

- 実施日:令和6年10月頃
- 内 容:現地セミナーの振り返り

- ・従来から参加を募っていた市内高校の山岳部に加え、高山植物や南アルプスに関心を持つ生徒の参加も呼びかけている。

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- ・市内高校の山岳部生徒が参加
- ・事後学習会アンケートを実施。参加者の意識調査を行っている。
設問 「今後の進路や就職先、部活動等において、「山」や「植物」、「自然環境」等に取り組みたいですか」
「今後、高山植物保護ボランティアネットワークの活動に参加してみたいですか」等

(4)事業実施にあたっての課題

- ・高山植物保護の担い手育成がセミナーの主目的の一つとなっているが、セミナーに参加した生徒が、その後の活動や進路において保護活動に携わっているかなどの実績が的確に把握できていない。

リーディングプロジェクト	②里地里山保全・活用	基本目標	里地里山の自然環境の保全・再生を推進するとともに、保全・再生活動に取り組む市民や団体を支援し、保全活動の継続を図る。
--------------	------------	------	--

No.4

指標名	維持管理協定締結団体数			担当課		環境共生課	
指標値	1団体／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	放任竹林対策の継続的な実施			前戦略からの継続性		継続	
事業目的	放任竹林対策推進事業を継続的に実施する団体に対し、5年間の協定に基づき補助金を交付することで良好な里地里山環境の整備を推進する。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略1－方針2	その他の関わり	戦略1－方針1／戦略2－方針2／戦略2－方針3			

指標の内容	定義	放任竹林対策推進のため協定を締結した団体数				
	概要	【実施主体】静岡市(環境共生課) 【事業内容】 ①補助金額: 上限50万円／団体 (整備: 上限25万円、利活用: 上限25万円) ②補助内容: 保全活動に必要な資材等 ③締結団体: 13団体(令和5年度末) ④協定内容: 維持管理協定 (申請した場所を5年間整備する) ※申請時に土地利用同意書を提出				



〈竹林整備の様子〉

【進捗状況凡例】◎: 目標達成 ○: 概ね順調 △: 要対策 ×: 達成困難 - : 中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		1団体	1団体	1団体	1団体	1団体	1団体	1団体	1団体	1団体	1団体
	実績	5団体	1団体	4団体							
	進捗	◎	◎	◎							

No.4 放任竹林対策の継続的な実施

(1) R5年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R5年度実績評価の理由:計画の指標値を達成したため

◆放任竹林対策推進事業における維持管理協定(5年)の締結数及び団体数

年度	当該年度の協定締結数	協定締結団体数(全体)	備考
R1	1団体(うち新規1)	16団体	※協定締結期間は5年間
R2	2団体(うち新規1、更新1)	8団体	
R3	5団体(うち新規5)	10団体	
R4	1団体(うち新規1)	10団体	
R5	4団体(うち新規2、更新2)	13団体	

- 補助金交付(8団体2,933千円)
- 消耗品支給(36団体 ※上記の補助金交付団体は含まれない)→リーディングプロジェクト②No.6へ取り出し
- イベントでの放任竹林問題の周知(静岡まつり出展、ピクニックガーデン出展、静岡ガスエネリアショールームイベント参加)
- 広報紙への掲載 R5年10月号「知ってください!! 放任竹林問題」
- 放任竹林対策会議の実施(R5年4月、9月)
- 竹林整備隊の実施(2回開催、延べ29名参加)
- パルシェ屋上スカイガーデン「天空の竹あかり」、関連展示『竹』×『地域』の力 企画展～放任竹林の解消にむけて～(R6.2月～3月)

(2) R6年度の取組内容・スケジュール

◆静岡市放任竹林対策推進事業補助金交付事業について、随時周知を行っていく。

- 令和5年度維持管理協定の締結数及び団体数
 - ・新規・・・2団体 更新・・・2団体 計4団体 協定締結団体数13団体
- イベントでの放任竹林問題の周知
 - ・静岡ガスとの連携イベントにて竹のワークショップを実施(4月)。
- 大学と連携し、高校生対象の講座を実施「静岡大学:未来の科学者養成スクール」
 - 4月21日:フィールドワーク(谷津山)と講義
 - 5月26日:受講者によるプレゼンテーション
- 放任竹林対策連絡会議の実施
 - 第1回:今後開催予定
 - ・整備ボランティア19団体35名が、団体同士の意見交換及び市との連携・協働のための情報共有を行う
- 竹林整備隊の実施(葵区、駿河区、清水区各1回以上開催予定)
- 日本平動物園、竹林整備団体との連携事業
 - ・日本平動物園と連携し、夜の動物園にて竹灯籠を展示予定。展示する竹灯籠を作るイベントを開催し放任竹林問題を周知。
 - ・レッパー君のもぐもぐプロジェクト 日本平動物園のレッサーパンダの飼料として市内の放任竹林の笹を活用
 - 令和6年度の協働パイロット事業にて申請中

(3) 市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- ・令和2年度に本事業の要綱改正を行い、補助金額の上限を引き上げた。
(補助金上限30万円/団体→補助金上限50万円/団体に変更)
- ・里山保全団体への消耗品等支給事業について、団体のニーズに沿った制度とするために令和4年度に聞取調査等を実施した。(令和5年度に当事業の要綱改正を実施)

(4) 事業実施にあたっての課題

- ・所有者の高齢化や後継者不足などにより、適切な管理が行われていない竹林によって生じる生物多様性への影響及び生活被害等への対策を継続していく必要がある(プロジェクトNo.4, No.5, No.6共通)。
- ・参加者の高齢化等に伴う担い手不足や活動資金確保困難性などによる市民活動の持続可能性の維持

リーディングプロジェクト	②里地里山保全・活用	基本目標	里地里山の自然環境の保全・再生を推進するとともに、保全・再生活動に取り組む市民や団体を支援し、保全活動の継続を図る。
--------------	------------	------	--

No.5

指標名	竹破砕機延べ貸出回数			担当課		環境共生課	
指標値	80回／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	里地里山における保全・再生活動の推進			前戦略からの継続性		継続	
事業目的	竹破砕機の貸出により保全活動団体を継続的に支援することで、団体の活動の促進と継続を図る。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略1－方針2	その他の関わり	戦略1－方針1／戦略2－方針2／戦略2－方針3			

指標の内容	定義	市内の放任竹林対策として竹林の伐採整備を行う団体に対し、自走式竹破碎機の貸出を行った回数				
	概要	【実施主体】静岡市(環境共生課) 【事業内容】 ①破碎機:6台(大岩車庫にて保管) ②貸出 :借用申請書の受理により貸出 ※最大15日間/回 ③貸出要件:放任竹林の整備を行う保全活動団体等(個人不可) 事前に「自走式竹破碎機安全運転講習会」を受講していること。				 〈破碎機の講習会の様子〉

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		80回	80回	80回	80回	80回	80回	80回	80回	80回	80回
	実績	78回	81回	63回							
	進捗	○	◎	△							

No.5 里地里山における保全・再生活動の推進

(1)R5年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R5年度実績評価の理由:計画の指標値の8割に到達しなかったため

○破砕機延べ貸出回数

年度	回数
H30	74回
R1	65回
R2	87回
R3	78回
R4	81回
R5	63回

- ・R5年については破砕機1台が故障により1年間、貸出希望はあったが、貸出できなかったため、回数が低迷した。
- ・R6年度は新たに破砕機2台を購入したため、貸出回数は回復する見込み。

(2)R6年度 of 取組内容・スケジュール

◆講習会の実施

- ・通年で破砕機の使用に関する申請を受け付けるとともに、新規利用団体に対して講習会を実施する。
 - 貸出件数:11件(R6年5月末日現在)
 - 講習会実施回数:2回(R6年5月末日現在)※団体の希望に応じて実施する

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- 市政出前講座(知ってください!「放任竹林問題」～みんなで守る里地・里山～)
 - ・実施する際には、講義だけではなく竹破砕機の実演を行い、竹破砕機の周知と積極的な利用を呼びかけている。

(4)事業実施にあたっての課題

- ・所有者の高齢化や後継者不足などにより、適切な管理が行われていない竹林によって生じる生物多様性への影響及び生活被害等への対策を継続していく必要がある(プロジェクトNo.4, No.5, No.6共通)。

リーディングプロジェクト	②里地里山保全・活用	基本目標	里地里山の自然環境の保全・再生を推進するとともに、保全・再生活動に取り組む市民や団体を支援し、保全活動の継続を図る。
--------------	------------	------	--

No.6

指標名	放任竹林の伐採面積 (R6～ 放任竹林整備のための消耗品等支給団体数)			担当課		環境共生課	
指標値	1.0ha／年 (R6～ 30団体／年)			時点	目標年度	方向性	維持
事業	放任竹林の整備推進			前戦略からの継続性		継続	
事業目的	行政によるモデル事業として保全活動団体で対応が困難な急傾斜地等の放任竹林を伐採し、その後の維持管理を保全活動団体が行うことで景観や生物多様性の回復を図る。 (R6～ 放任竹林整備事業を実施する団体に対し、事業の実施に必要な消耗品等を支給することで、団体の活動の促進と継続を図る。)						
戦略との関係	主要な関わり	戦略1－方針2	その他の関わり	戦略1－方針1／戦略2－方針3			

指標の内容	定義	委託業務による放任竹林の伐採面積 (R6～ 放任竹林整備のための消耗品等支給団体数)
	概要	【実施主体】静岡市(委託業務) R6～(環境共生課) 【事業内容】 ①実施場所:市内モデル地区 ②選定要件:・保全活動団体が整備した竹林と一体的な整備管理が可能であること。 ・景観の向上や不法投棄の防止など、生活環境の保全が図れること。 ・人目につきやすく、竹林活動の啓発が可能であること。 ②整備後の維持管理:保全活動団体による維持管理 R6～ ①支給品:軍手、豚革手袋、ノコギリ(竹挽用)、なた、鎌、刈込みばさみ、スコップ、フォーク、地下足袋、安全靴、ヘルメット、刈払い機用替刃、ロープ、混合燃料、虫よけスプレー、鋤、剪定鋏、チェーンソー替刃、苗木(10種類) ②支給内容:支給各品点数の150点以内 ※1点あたり約500円程度 (直近3年度以内に本事業を利用した団体は100点以内) ③支給時期:年度2回(6月頃、12月頃)



(支給品を利用した竹林整備の様子)

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		1.0ha	1.0ha	1.0ha	30団体	30団体	30団体	30団体	30団体	30団体	30団体
	実績	0.8ha (28団体)	0.8ha (24団体)	0.7ha (36団体) ※要網見直し							
	進捗	○	○	△							

No.6 放任竹林の整備推進

(1)R5年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R5年度実績評価の理由:計画の指標値の8割に到達しなかったため

◆委託伐採

- 実施日:令和6年3月21日～令和6年3月29日
- 施工場所:葵区昭府町、葵区春日
- 内容:竹林皆伐0.7ha(賤機山0.6ha、谷津山0.1ha)
- 経緯:昭府町自治会及び春日三丁目自治会から、竹資材の利用の減少や竹林所有者の高齢化などの理由により適正な管理がなされていない放任竹林が山全体に拡大しており、自然環境及び景観の悪化のみでなく、土砂災害の発生が危惧されるため、地域の共通課題として、土地所有者の承諾を得て、放任竹林対策活動を行いたい旨の要望があった。
なお、要望箇所における維持管理は、同地区で活動している団体と協力し、継続して管理を行っていく。

(2)R6年度 of 取組内容・スケジュール

◆委託伐採事業の見直し

- ・整備団体支援として整備団体の管理地の伐採を行ってきたが、地域課題の解決、地域の自助を支援する事業として放任竹林の多い地区を対象とする。最初の1回のみ皆伐での整備を行い、その後の維持管理を自治会等が行うことで、地域課題を地域住民自らの手で改善できるようにする。自治会だけでの管理も難しいため、整備団体への協力も仰ぎ地域と整備団体が一体となって整備出来る体制をつくる。

◆取組スケジュール

- ・6月:前期申請者対象に消耗品を支給(29団体が申請)
- ・10月:消耗品支給後期分募集開始
- ・12月:後期申請者対象に消耗品を支給
- ・通年:本年度の整備が完了した申請団体毎、年度末までに実施報告書を提出

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- ・里山保全団体への消耗品等支給事業について、団体のニーズに沿った制度とするために令和4年度に希望調査等を実施した。(令和5年度に当事業の要綱改正を実施)

(4)事業実施にあたっての課題

- ・消耗品等支給はスタートアップ支援の要素が強いため、ある程度成熟した団体に対しては次のステップとして補助金等の利用を促していく。
- ・所有者の高齢化や後継者不足などにより、適切な管理が行われていない竹林によって生じる生物多様性への影響及び生活被害等への対策を継続していく必要がある。(プロジェクトNo.4, No.5, No.6共通)

リーディングプロジェクト	②里地里山保全・活用	目標	里地里山の自然環境の保全・再生を推進するとともに、保全・再生活動に取り組む市民や団体を支援し、保全活動の継続を図る。
--------------	------------	----	--

No.7

指標名	緩衝地帯の整備面積			担当課		中山間地振興課	
指標値	7.5ha／年(全て藪の刈払い) 0.5ha／年(全て竹林伐採)			時点	目標年度	方向性	維持
事業	緩衝地帯の整備推進放任竹林の整備推進			前戦略からの継続性		継続	
事業目的	里地里山に見られる藪の刈払いや、耕作放棄された茶の伐採等により、野生鳥獣からの農作物被害を軽減するとともに、植物や昆虫の生育・生息場所となる里山環境を整備する。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略1－方針2	その他の関わり	戦略1－方針1／戦略2－方針3			

指標の内容	定義	委託業務による緩衝地帯の伐採面積 ※藪、茶畑、放任竹林の伐採。金額がそれぞれ異なるため、特に重要度の高い場所を選定し予算内で可能な範囲での伐採を行う。			
	概要	【実施主体】静岡市(委託業務)、静岡市鳥獣被害対策実施隊 【事業内容】 ①実施内容:藪の刈払い、耕作放棄された茶の伐採、放任竹林の伐採 ②実施場所:委託業務については、地元要望により決定 ※実施隊活動については、要望を受けた静岡市野生動物被害対策研究協議会で決定 ③整備後の維持管理:地元農家で管理 ※整備後の維持管理手法について、地元農家を対象に勉強会を開催している。			



〈緩衝地帯整備の様子〉

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度(目標年度)
		7.5ha/年 (全て藪の刈払い) 0.5ha/年 (全て竹林伐採)	7.5ha/年 (全て藪の刈払い) 0.5ha/年 (全て竹林伐採)	7.5ha/年 (全て藪の刈払い) 0.5ha/年 (全て竹林伐採)	7.5ha/年 (全て藪の刈払い) 0.5ha/年 (全て竹林伐採)	7.5ha/年 (全て藪の刈払い) 0.5ha/年 (全て竹林伐採)	7.5ha/年 (全て藪の刈払い) 0.5ha/年 (全て竹林伐採)	7.5ha/年 (全て藪の刈払い) 0.5ha/年 (全て竹林伐採)	7.5ha/年 (全て藪の刈払い) 0.5ha/年 (全て竹林伐採)	7.5ha/年 (全て藪の刈払い) 0.5ha/年 (全て竹林伐採)	7.5ha/年 (全て藪の刈払い) 0.5ha/年 (全て竹林伐採)
	実績	0.71ha/年(藪) 0.87ha/年 (放任茶園) 0.44ha/年 (竹林皆伐)	7.81ha/年(藪) 0.59ha/年 (竹林皆伐)	3.01ha/年(藪) 0.79ha/年 (放任茶園)							
	進捗	○	◎	○							

No.7 緩衝地帯の整備推進放任竹林の整備推進

(1)R5年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R5年度実績評価の理由:計画の指標値の8割を達成したため

- ・葵区栃熊地区の農地周辺で藪刈払い1.01ha、放任茶園皆伐0.79ha、
- ・清水区両河内で2箇所計2haの藪刈払いを実施し、目標値の8割超の実績となった。

(2)R6年度 of 取組内容・スケジュール

○委託事業(予算額4,000千円)

○実施隊活動(予算額1,250千円)

- ・R6年度は、クマ、サルの出没が多発する葵区梅ヶ島地区で、誘因物となる集落周辺の放任果樹(カキ・クリ・クワ等)の伐採を試行予定。
- ・藪の刈払いについては、両河内で2haを予定。

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- ・整備後の管理は、地元が実施する。

(4)事業実施にあたっての課題

- ・最も被害の目立つ野生イノシシに豚熱(CSF)が蔓延したことにより、野生イノシシの数が減少し、営農者の防除意欲が低下している。
- ・整備後の管理は地元で実施することとしているが、営農者の高齢化、減少により持続的な管理が困難になりつつある。

リーディングプロジェクト	③外来種対応の適正化推進	目標	モニタリング等の調査に基づき、専門家の意見を踏まえた適正な管理方法や、市民協働による実施体制の構築を目指すとともに、特定外来生物をはじめとした外来種に対する市民意識の向上を図る。
--------------	--------------	----	---

No.8

指標名	特定外来生物の調査・対応実施回数			担当課		環境共生課	
指標値	15回／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	特定外来生物調査・対応			前戦略からの継続性		継続	
事業目的	現地調査及び情報収集を行い、特定外来生物の生息状況を把握する。 また、市民からの発見情報に基づき、調査及び早期対策を実施し、特定外来生物の生息域拡大を防ぐ。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略1－方針3	その他の関わり	戦略3－方針2／戦略4－方針1			

指標の内容	定義	市職員や専門家による特定外来生物の調査及び、市民からの通報に基づく対応回数を集計				
	概要	【実施主体】静岡市（環境共生課、関係各課）・専門家 【事業内容】 ①対象生物：オオキンケイギク、アルゼンチンアリ、カミツキガメ、アライグマ、セアカゴケグモ、ヒアリ等 ②調査方法：捕獲調査、目視調査等 ※可能な場合は調査に併せて駆除を行う。 ※同定が困難な場合は専門家に依頼する。 県や専門家と情報共有を図る。 ※広報紙や市のHP等で市民からの情報提供を依頼する。				



〈オオキンケイギク駆除の様子〉

【進捗状況凡例】◎：目標達成 ○：概ね順調 △：要対策 ×：達成困難 －：中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		15回	15回	15回	15回	15回	15回	15回	15回	15回	15回
	実績	24回	18回	24回							
	進捗	◎	◎	◎							

No.8 特定外来生物調査・対応

(1)R5年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R5年度実績評価の理由:計画の指標値を達成したため

◆ 特定外来生物の調査及び、市民からの通報に基づく対応回数(R4年度) 出動等(回)

アライグマ	捕獲用わな貸出事業を実施 3通報のうち、3回出動し罠を設置、捕獲なし	7	捕獲0匹
カミツキガメ	モニタリング調査、通報により2回出動し2匹を捕獲	3	捕獲2匹
オオキンケイギク	ヘリポート他7カ所を一斉伐根	1	
セアカゴケグモ	8月業者委託による防除を実施。職員による防除2回実施、市民からの通報による現地確認(三保半島以外)を4回実施	7	
アルゼンチンアリ	業者へ委託し、9月にモニタリング調査を実施 発見なし	1	
ヒアリ	5月庁内連絡会議を開催 7月、11月関係課にて定期調査を実施 発見なし	2	
ナガエツルノゲイトウ	6月、9月駆除、3月啓発講座を麻機ウェットランドクラブ等と連携し実施	3	

合計 24

◆ 広報紙への掲載

・R5年5月号「そうかな?と思ったら即通報!~特定外来生物に関する情報を大募集!~」

◆ 市政出前講座「外来生物ってなんだろう?」実施

(2)R6年度 of 取組内容・スケジュール

◆ 特定外来生物の調査及び、市民からの通報に基づく対応回数(R6.6月時点) 出動等(回)

アライグマ	通報後に現地確認を行い、必要に応じて罠を貸与。捕獲の際は猟友会へ依頼し処分を行う。	2	2匹捕獲
カミツキガメ	6月モニタリング調査実施、市民からの通報に応じて随時出動	2	4匹捕獲
オオキンケイギク	5月道路局連携で市内7カ所で伐根実施、5月足久保自治会と実施	2	
セアカゴケグモ	職員による防除を2回実施。今後業者委託による防除を1回9月ごろ実施予定。市民からの通報による現地確認を随時実施。	2	
アルゼンチンアリ	委託によるモニタリング調査を9月に実施予定	—	
ヒアリ	6月庁内連絡会議を開催済、7月、11月に関係課にて定期調査を実施予定	1	
ナガエツルノゲイトウ	5月麻機遊水地クリーン作戦にて駆除実施	1	

合計 10

◆ 生息状況のGoogleマイマップでのマッピング(アライグマ、セアカゴケグモ)

◆ 広報紙への掲載 R6年5月号「~特定外来生物に関する情報を大募集!~」

◆ 市政出前講座「外来生物ってなんだろう?」実施

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- オオキンケイギク駆除
 - ・町内の伐根活動への参加(プロジェクトNo.9掲載)
- ナガエツルノゲイトウの駆除
 - ・地域の保全団体等と連携
- セアカゴケグモ防除
 - ・生息地域の住民に対して講座や体験活動を実施予定
 - ・工事事業者等に対する資材移動時における注意喚起
- 広報誌掲載による周知
- 市政出前講座受講者への啓発

(4)事業実施にあたっての課題

- ・民地における防除も必要となるため、住民の理解、協力が必要となる。
- ・対策の効果が限定的であることから、根絶に向けては継続的な対応が必要となる。

リーディングプロジェクト	③外来種対応の適正化推進	目標	モニタリング等の調査に基づき、専門家の意見を踏まえた適正な管理方法や、市民協働による実施体制の構築を目指すとともに、特定外来生物をはじめとした外来種に対する市民意識の向上を図る。
--------------	--------------	----	---

No.9

指標名	市民協働の調査・駆除回数			担当課		環境共生課	
指標値	3回／年			時点	目標年度	方向性	向上
事業	市民協働の特定外来生物調査・駆除			前戦略からの継続性		新規(既実施事業)	
事業目的	市民と協働して特定外来生物の調査・駆除を実施することにより、広範囲かつ継続的な駆除の体制を整備する。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略1－方針3	その他の関わり	戦略2－方針1／戦略3－方針2／戦略4－方針1			

指標の内容	定義	市民と協働して行った特定外来生物の調査・駆除(カミツキガメ調査・オオキンケイギク駆除等)回数を集計				
	概要	【実施主体】静岡市(環境共生課)、専門家、自治会、学生 等 【事業内容】 ◆カミツキガメ調査及び駆除 ①調査時期:5～10月 ②調査場所:麻機遊水地 ③対象者 :中学生、高校生、大人 ◆オオキンケイギク駆除 ①実施時期:5～7月 ②実施方法:町内の清掃活動、小学校等のクリーン作戦等で、市職員が伐根方法の指導後、清掃活動に併せて伐根する。				



〈カミツキガメ捕獲調査の様子〉

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		3回	3回	3回	3回	3回	3回	3回	3回	3回	3回
	実績	3回	3回	4回							
	進捗	◎	◎	◎							

No.9 市民協働の特定外来生物調査・駆除

(1)R5年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R5年度実績評価の理由:計画の指標値を達成したため

◆カミツキガメ調査及び駆除

(1)麻機遊水地第3工区

- 実施日:令和5年5月24日(水)～25日(木) 計2日間
- 場 所:麻機遊水地第3工区、浅畑川
- 参加者:静岡大学、静岡北中学校・高等学校約70名、環境共生課
- 内 容:カニかごを使用した捕獲調査
- 調査結果:ワナ116個設置、カミツキガメの捕獲なし。在来種(1種類4個体)、外来種(2種、52個体)

(2)麻機遊水地第4工区

- 実施日:令和5年7月29日(土) 計1日間
- 場 所:麻機遊水地第1工区
- 参加者:市民生きもの調査員養成講座受講生、環境共生課
- 内 容:カニかごを使用した捕獲調査
- 調査結果:ワナ30個設置、カミツキガメの捕獲なし。外来種(2種、2個体)
- 内 容:受講者(小学生)に対し、外来生物についての講義を行う。

◆ナガエツルノゲイトウ駆除

(1)麻機遊水地保全活用推進協議会と連携

- 実施日:令和5年6月12日(月)、9月12日(水)
- 場 所:麻機遊水地第3工区

(2)「特定外来生物ナガエツルノゲイトウを学ぶ会」共催(麻機ウェットランドクラブ等)

- 実施日:令和6年3月2日(土)
- 場 所:【講習】あさはた緑地センターハウス、【実演と駆除体験】麻機遊水地第3工区

(2)R6年度 of 取組内容・スケジュール

◆カミツキガメ調査及び駆除

(1)麻機遊水地第3工区

- 実施日:令和6年6月6日(木)～7日(金) 計2日間
- 場 所:麻機遊水地第3工区、浅畑川
- 参加者:静岡大学、静岡北中学校・高等学校、環境共生課
- 内 容:カニかごを使用した捕獲調査

(2)麻機遊水地第3工区

- 実施日:令和6年6月13日(木)～14日(金) 計2日間
- 場 所:麻機遊水地第3工区、浅畑川
- 参加者:静岡大学、環境共生課
- 内 容:カニかごを使用した捕獲調査
- 調査結果:集計中

◆オオキンケイギク駆除

(1)足久保自治会 ※R5年度は雨天で中止となった

- 実施日:令和6年5月12日(日)
- 場 所:葵区足久保一丁目(美和中学校の脇にある安倍川沿い)

◆ナガエツルノゲイトウ駆除

(1)麻機遊水地クリーン作戦

- 実施日:令和6年5月25日(土)
- 場 所:麻機遊水地第3工区
- 内容:麻機ウェットランドクラブ、常葉大学、環境アセスメントセンターと連携

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

◆カミツキガメ調査及び駆除

- ・静岡大学、静岡北中学校・高等学校、市民生きもの調査員養成講座受講生が参加

◆オオキンケイギク駆除

- ・町内の伐根活動への参加

◆ナガエツルノゲイトウ

- ・麻機遊水地保全活用推進協議会に加入している団体と連携

(4)事業実施にあたっての課題

◆オオキンケイギク駆除

- ・市民参加機会の創出、増大に向けた検討

リーディングプロジェクト	③外来種対応の適正化推進	目標	モニタリング等の調査に基づき、専門家の意見を踏まえた適正な管理方法や、市民協働による実施体制の構築を目指すとともに、特定外来生物をはじめとした外来種に対する市民意識の向上を図る。
--------------	--------------	----	---

No.10

指標名	しぜんたんけんてちょうの閲覧数			担当課		環境共生課	
指標値	33,000件 (R6～ 55,000件/年)			時点	目標年度	方向性	向上
事業	特定外来生物の情報収集・発信			前戦略からの継続性		新規(既実施事業)	
事業目的	外来生物に関する情報の発信等により、市民の生物多様性への理解の推進を図る。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略1－方針3	その他の関わり	戦略3－方針1／戦略3－方針2／戦略4－方針3			

指標の内容	定義	「しぜんたんけんてちょう」の閲覧者数を集計				
	概要	【実施主体】静岡市(環境共生課) 【事業内容】 ◆しぜんたんけんてちょうの活用 ①掲載時期:通年 ②掲載内容:・外来生物の生態や特徴 ・外来生物発見情報 ・市民参加型調査等の募集 ・自然観察会等イベント情報 ・市民による生きものの発見情報の投稿 ・外来生物の駆除方法の紹介 ※各種イベントやチラシ、パンフレット等でしぜんたんけんてちょうを紹介する。〈HP「しぜんたんけんてちょう」〉				



【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		33,000件	33,000件	33,000件	55,000件	59,000件	63,000件	65,000件	67,000件	69,000件	71,000件
	実績	53,257件	55,523件	81,466件							
	進捗	◎	◎	◎							

(1) R5年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R5年度実績評価の理由:計画の指標値を達成したため

- 各種イベントやチラシ、パンフレット等でしぜんたんけんてちょうを紹介
- しぜんたんけんてちょうの改修
「環境学習ガイドブック」を新設・・・行政等が実施する環境学習の講座を集約
- プレゼントキャンペーンを実施しリニューアルを周知
 - ①期間:令和5年5月1日～8月31日
 - ②応募方法:ウェブサイトアクセスし、簡単なクイズの答えと欲しいプレゼントを回答する
- 記事掲載件数(全体) 303件

(2) R6年度 of 取組内容・スケジュール

- 各種イベントやチラシ、パンフレット等でしぜんたんけんてちょうを紹介
- イベント等掲載への周知
環境局、関係課、関係団体にサイトの周知及び庁内各課へ環境に関するイベント掲載の依頼
R6.6月現在掲載記事数(全体) 44件
- 「環境学習ガイドブック」の活用
市民団体や企業等が実施する講座について掲載を広げる

(3) 市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- 各種イベントやチラシ、パンフレット等でしぜんたんけんてちょうを紹介する
 - ・市民参加型調査等の募集、自然観察会等イベント情報、市民による生きものの発見情報の投稿
- R5記事掲載
 - ・麻機遊水地第3工区南側でカミツキガメ捕獲の報告及び注意喚起
 - ・「静岡まつり」にて竹の貯金箱づくりを実施
 - ・長田南小学校5年生が作成したごみ減量ポスターを静鉄電車・バスに掲載 など

(4) 事業実施にあたっての課題

- ・イベント情報や活動レポートについて、各課の自主的な投稿が少ない

リーディングプロジェクト	④まちなか自然ふれあい活動推進事業	目標	自然環境に対する市民意識の向上を図りつつ、主催する活動団体の継続性や拡大も意識し、市民が取り組みやすい内容や参加方法の推進と、活動団体の交流を通じた情報共有や拡大・連携の仕組みの構築を目指す。
--------------	-------------------	----	--

No.11

指標名	セミの抜け殻調査参加者数			担当課		環境共生課	
指標値	20名／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	まちなかにおける自然観察会の実施			前戦略からの継続性		新規(R4～実施予定)	
事業目的	まちなかでイベントを開催することで、自然を身近に感じるとともに、市民の生きものに対する興味を引き出す。 さらに、保全活動団体等と連携し、活動の場の提供や生きものの生息情報の蓄積を図る。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略2－方針1	その他の関わり	戦略3－方針2／戦略4－方針1			

指標の内容	定義	「セミの抜け殻調査」の参加者数を集計				
	概要	【実施主体】静岡市(環境共生課) 【事業内容】 ①実施時期:7月中旬～8月下旬 ②実施場所:城北公園 ③講師:鈴木芳徳氏 (元静岡科学館る・く・るエドゥケーター) ④調査内容:・セミの抜け殻から種を分類し、生息割合を集計する。 ・他の調査箇所のデータと比較し、 生息場所による種の違いに気づく。				



<セミの抜け殻観察会の様子>

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		体制整備	体制整備	体制整備	20名	20名	20名	20名	20名	20名	20名
	実績	体制整備 (40名)	体制整備 (35名)	体制整備 (43名)							
	進捗	○	○	○							

No.11 まちなかにおける自然観察会の実施

(1)R5年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R5年度実績評価の理由:体制整備中であり、事業を試行的に実施したため

◆令和5年度セミの抜け殻観察会を実施

- ・R3年度～中央図書館と共催で実施。
- 実施日:令和5年8月8日(火)
- 実施場所:①セミの抜け殻採集 城北公園(葵区大岩本町29-1)
:②セミの生態と抜け殻の分類 中央図書館ホール(葵区大岩本町29-1)
- 講師:鈴木芳徳氏(元静岡科学館る・く・るエドゥケーター)
- 調査内容:・セミの抜け殻から種を分類し、生息割合を集計する。
・他の調査箇所のデータと比較し、生息場所による種の違いに気づく。
- 参加者:17組43名
- 講師が市内で行っているセミの抜け殻調査のとりまとめ結果をしぜんたんけんてちょうで公開している
・静岡・街なかのセミ めけがら調べ2022結果一覧 ※過去の調査結果付き

◆ホタルパネル展示

- 実施日:令和5年6月1日(木)～15日(金)
- 実施場所:東部生涯学習センター
- 内 容:パネル展示、ホタルのアニメ上映
- ※紅葉山庭園の整備に伴い夜間開園が中止となったため、ホタルを切り口に生物多様性を学ぶパネル等の展示を行い、環境保全への興味・関心を高めるきっかけとする。

(2)R6年度の取組内容・スケジュール

◆令和6年度セミの抜け殻観察会

- ・中央図書館と共催で実施する。
- 実施時期:令和6年7月30日(火)
- 実施場所:城北公園
- 講師 :鈴木芳徳氏(元静岡科学館る・く・るエドゥケーター)
- 調査内容:・セミの抜け殻から種を分類し、生息割合を集計する。
・他の調査箇所のデータと比較し、生息場所による種の違いに気づく。
- 募集:小学生以上の子どもとその保護者 45名
- 周知方法:広報紙、チラシの配布(各庁舎、図書館、動物園、静岡科学館等)、しぜんたんけんてちょうへの掲載

◆ホタルパネル展示

- 紅葉山庭園の夜間開園中止のため、静岡庁舎1階フロアスペースにてホタルに関するパネル展示を実施した。
- 展示期間:令和6年4月19日(金)～30日(火)

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

◆セミの抜け殻調査

- ・講師として、市内の生涯学習センターで「めざせ！セミのめけがら博士」の講座で講義をしている鈴木氏に依頼し、鈴木氏が講師をしている市内のセミの抜け殻調査のとりまとめ結果を公開している。
- ・図書館と共催で実施し、受講者に関連図書を案内し講義を入口として自ら学習を行う機会を提供している。

◆ホタル

- ・展示パネルは、市民団体や大学生に作成いただいている。
- ・市民団体が講師を務めるホタルの学習会が小学校で実施されている。

(4)事業実施にあたっての課題を記載

- ・自然観察会を市のパートナーとして実施する団体・人材の発掘が必要
- ・収集したデータは「しぜんたんけんてちょう」で公開しているが、活用方法、展開方法を検討する。

リーディングプロジェクト	④まちなか自然ふれあい活動推進事業	目標	自然環境に対する市民意識の向上を図りつつ、主催する活動団体の継続性や拡大も意識し、市民が取り組みやすい内容や参加方法の推進と、活動団体の交流を通じた情報共有や拡大・連携の仕組みの構築を目指す。
--------------	-------------------	----	--

No.12

指標名	河川環境アドプトプログラムの登録団体の延べ活動回数			担当課		環境共生課	
指標値	100回／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	まちなかにおける環境保全活動の推進			前戦略からの継続性		新規(既実施事業)	
事業目的	環境美化ボランティアによる安倍川・藁科川・興津川での清掃活動を通して、河川環境の保全と河川環境に対する市民意識の向上を図る。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略2－方針1	その他の関わり	戦略1－方針1／戦略2－方針2／戦略3－方針3			

指標の内容	定義	「河川環境アドプトプログラム」の登録団体の延べ活動回数を集計				
	概要	【実施主体】「河川環境アドプトプログラム」の登録団体 【事業内容】 ①登録団体数：60団体(令和5年度末) ※令和5年度時点で更新がない団体を除く。 (保全活動団体、自治会、企業、家族等) ②活動場所：安倍川・藁科川・興津川 16区間 ③活動内容：・対象河川における河川敷のゴミを取り除く。 ・河川周辺に生息する生物の情報を市に提供する。 ④活動周知：・報告書に基づき、市のHPで紹介。 ・活動区間に登録団体名を記載した看板を設置。				



〈環境美化ボランティアによる活動の様子〉

【進捗状況凡例】◎：目標達成 ○：概ね順調 △：要対策 ×：達成困難 ー：中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		98回	100回	100回	100回	100回	100回	100回	100回	100回	100回
	実績	65回	83回	50回							
	進捗	△	○	△							

No.12 まちなかにおける環境保全活動の推進

(1)R5年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R5年度実績評価の理由:計画の指標値の8割に到達しなかったため

○登録団体の延べ活動回数

※令和4年台風15号の影響による工事が行われていたため河川敷への立入ができず、活動が困難であったため

年度	回数	新規登録団体数	備考
H30	116回	6団体	
R1	85回	3団体	
R2	57回	4団体	※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、活動回数が大幅に減少
R3	65回	3団体	
R4	83回	6団体	※R4年台風15号の影響による河川工事のため立ち入りできない区間が多く、活動回数が大幅に減少
R5	50回	2団体	

(2)R6年度の取組内容・スケジュール

○通年

- ・河川環境アドプトプログラムの周知
- ・市民自治推進課が運営する市民活動のポータルサイト「ここからネット」に河川環境アドプトプログラムの参加募集に関する記事を掲載
- ・河川環境アドプトプログラム活動団体のPR(HPへの掲載等)
- ・新規登録団体の受入

○その他

- ・河川海岸美化運動の実施(河川課主催):令和4年度台風15号の影響により中止
- ・令和5年9月上旬 清流クリーン作戦(興津川、藁科川、玉川)
- ・広報紙への掲載 R6年7月号「河川環境アドプトプログラムのご案内」

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- ・河川環境アドプトプログラム登録団体の活動をHPに掲載している。
- ・活動場所に活動団体の名前が載った看板を設置し、PRを行っている。

(4)事業実施にあたっての課題

- ・令和4年台風15号の影響により被害対応のための工事が始まり立ち入りが規制され、参加団体の活動に支障が生じている。

リーディングプロジェクト	④まちなか自然ふれあい活動推進事業	目標	自然環境に対する市民意識の向上を図りつつ、主催する活動団体の継続性や拡大も意識し、市民が取り組みやすい内容や参加方法の推進と、活動団体の交流を通じた情報共有や拡大・連携の仕組みの構築を目指す。
--------------	-------------------	----	--

No.13

指標名	麻機遊水地における自然観察会の実施回数			担当課		緑地政策課	
指標値	10回／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	麻機遊水地における自然ふれあい活動の推進			前戦略からの継続性		継続	
事業目的	麻機遊水地において自然観察会やイベントを実施することで、市民が身近に自然を感じる機会を創出する。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略2－方針1	その他の関わり	戦略3－方針2／戦略3－方針3／戦略4－方針1			

指標の内容	定義	麻機遊水地(第1工区、第3工区、第4工区)で行われる自然観察会の実施回数を集計					
	概要	【実施主体】団体・企業(麻機遊水地保全活用推進協議会に所属) 【事業内容】 ①登録団体数:87団体 (保全活動団体、自治会、企業、家族等) ②実施時期:通年 ③実施場所:麻機遊水地(第1工区、第3工区、第4工区) ④実施内容:自然観察会(オニバス、ミズアオイ、サクラタデ等) 柴あげ漁、麻機遊水地フェスタでのイベント開催 等					



〈自然観察会の様子〉

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		10回	10回	10回	10回	10回	10回	10回	10回	10回	10回
	実績	9回	11回	10回							
	進捗	○	◎	◎							

No.13 麻機遊水地における自然ふれあい活動の推進

(1)R5年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R5年度実績評価の理由:計画の指標値を達成したため

- ・麻機遊水地保全活用推進協議会に所属する団体・企業等により夏・秋を中心に自然観察会や各種イベントにおけるブース出展等の啓発活動が行われ、各回30人～100人程度の参加者に対して希少種の保護や外来生物の情報等の啓発が行われている。

◆自然観察会の実施回数

年度	回数	備考
H27	12回	
H28	12回	
H29	12回	
H30	12回	
R1	10回	
R2	8回	※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業の中止・規模縮小
R3	9回	
R4	11回	
R5	10回	

(2)R6年度 of 取組内容・スケジュール

- 6月 福祉農園の田植え活動の実施(ベアテル麻機部会)
- 初夏の麻機遊水地自然観察会(麻機湿原を保全する会)
- 7月 ハスの観察会の実施(麻機ウエットランドクラブ)
- 9月 オニバス、ミズアオイの観察会の実施(麻機ウエットランドクラブ)
- 10月 サクラダテ自然観察会(麻機湿原を保全する会)
- 福祉農園の脱穀・稲刈り活動の実施(ベアテル麻機部会)
- 11月 カヤネズミの観察会の実施(麻機ウエットランドクラブ)
- 1月 おさんぽ観察会の実施(麻機ウエットランドクラブ)
- 柴揚げ漁の実施(麻機遊水地柴揚げ漁保存会)
- 3月 おさんぽ観察会(麻機ウエットランドクラブ)
- 4月～12月 あさはたマスター(あさはた緑地管理事務所)

その他、随時自然観察会等を実施予定。

- ◆環境省「自然共生サイト」への登録申請(麻機遊水地保全活用推進協議会)
 - ・「自然共生サイト」事業の開始に伴い、協議会が主体となって麻機遊水地(第1・第3・第4工区)の登録を申請し、認定された。
 - ・静岡県河川部局と今後の民間支援の導入について検討中。
- ◆モニタリングサイト1000里地調査一般サイト(カヤネズミ)調査地に決定(第1工区)(環境共生課)
 - ・市民生きもの調査員、東部生涯学習センターカヤネズミ講座受講生とともに調査を実施する。

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- ・現在実施している自然観察会、啓発活動を継続して実施するとともに、よりわかりやすい情報発信を目指してSNSの活用等様々な手法を検討する。
- ・情報発信に際し、開催案内の市広報紙への掲載や、報道機関への投げ込みを市が行い、情報発信の強化を図っている。
- ・協議会予算からチラシの作成費や事業開催に伴う消耗品購入費を補助している。

(4)事業実施にあたっての課題

- ・現在の団体に所属する会員は当初から活動している会員が多く、高齢化しているとともに新規加入者がなかなか確保できておらず、新たな人材の育成が進んでいない。
- ・協議会予算にてイベント開催補助等に係る補助を行っているが、予算が削減される可能性がある。

リーディングプロジェクト	④まちなか自然ふれあい活動推進事業	目標	自然環境に対する市民意識の向上を図りつつ、主催する活動団体の継続性や拡大も意識し、市民が取り組みやすい内容や参加方法の推進と、活動団体の交流を通じた情報共有や拡大・連携の仕組みの構築を目指す。
--------------	-------------------	----	--

No.14

指標名	花苗等配付による緑化支援団体数			担当課		緑地政策課	
指標値	延べ900団体／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	地域団体等への緑化支援			前戦略からの継続性		継続	
事業目的	市民の身近にある自治会等の花壇づくりを支援し、植物や植物に集まる生きものへの関心喚起を図り、また身近な場所での生きものとの触れ合いの場を創出する。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略2－方針3	その他の関わり	戦略2－方針1／戦略3－方針3			

指標の内容	定義	自治会と花壇づくり団体を対象とした、花苗等の配布件数を集計				
	概要	【実施主体】静岡市(緑地政策課) 【事業内容】 ①実施時期:7月、11月、3月(3月は資材配付のみ) ②配付物 :自治会や花壇づくり団体が設置・管理する花壇に対する花苗や資材 ※花苗配付後は各団体により植付管理を実施。 ※市民ボランティアと共に花苗等配付の積み込み作業等、官民共同作業を実施。 ※花と緑の推進員を対象とした緑化講習会を実施し、ボランティアの育成を図る。 (静岡市花と緑のまちづくり協議会主催 2回／年)				



〈花苗配付の様子〉

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		延べ900団体	延べ900団体	延べ900団体	延べ900団体	延べ900団体	延べ900団体	延べ900団体	延べ900団体	延べ900団体	延べ900団体
	実績	832団体	802団体	769団体							
	進捗	○	○	○							

No.14 地域団体等への緑化支援

(1)R5年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R5年度実績評価の理由:計画の指標値の8割を達成したため

- ◆自治体や花壇づくり団体が、設置・管理する花壇に対する花苗や資材の配付。
- 団体を対象とした、花苗等の配布件数

年度	配付回数
H28	934団体
H29	977団体
H30	926団体
R1	901団体
R2	874団体
R3	832団体
R4	802団体
R5	941団体
R6	769団体

(2)R6年度 of 取組内容・スケジュール

- ・年3回配付予定(令和6年6月と11月に花苗を配付、令和7年3月は資材を配付予定)

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組

- ・花苗配付後は、各団体により植付管理を実施する。

(4)事業実施にあたっての課題

- ・団体構成員の高齢化により、活動内容が縮小傾向にある。

リーディングプロジェクト	⑤幼児期からの環境教育推進事業	目標	幼児期における自然とのふれあいにより、自然を大切にする心を育み、さらに成長しても自然に対する関心が引き継がれていくよう、幼児期からの環境教育の場、保全活動の機会を提供する。
--------------	-----------------	----	--

No.15

指標名	幼児を対象とした学習会の指導員派遣回数			担当課		環境共生課	
指標値	20回／年			時点	目標年度	方向性	向上
事業	環境学習指導員の派遣			前戦略からの継続性		新規(既実施事業)	
事業目的	こども園等に環境学習指導員を派遣することで、環境教育の実践に関する保育者等の負担を軽減するとともに、子どもたちの自然に対する興味を引き出す。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略3－方針1	その他の関わり	戦略2－方針1／戦略4－方針3			

指標の内容	定義	こども園、保育園、幼稚園など、幼児を対象とした環境学習会に対し、環境学習指導員を派遣した回数を集計					
	概要	【実施主体】静岡市(環境共生課)、受託者(派遣のコーディネート・謝金支払) 【事業内容】 ①実施時期: 通年(1団体あたり年2回まで) ②実施場所: 身近な川や池、公園 等 ③実施内容: 身近な場所での自然観察会 等 ④対象者 : 小・中学校、こども園、子供会、児童クラブ、自治会、町内会 等 ⑤費用 : 講師に係る謝金は市が負担 ※学習会で得た情報を保育者等が日常の活動に利用できる。 ※幼児でも取り組める環境教育の活動内容について、大学等と連携し、継続的に検討していく。					



〈指導員による環境学習会の様子〉

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		20回	20回	20回	20回	20回	20回	20回	20回	20回	20回
	実績	延べ33回 (25施設)	延べ38回 (28施設)	延べ26回 (19施設)							
	進捗	◎	◎	◎							

No.15 環境学習指導員の派遣

(1) R5年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R5年度実績評価の理由:計画の指標値を達成したため

- 目的:環境に関する専門的な知識を有し、市に登録されている静岡市環境学習指導員を市民団体等が実施する環境保全に関する教育や自然環境を体験的に学ぶ学習会に派遣することで、環境に対する市民意識の向上と市民による自発的な環境保全活動の促進を図ること。
- 根拠法令:静岡市環境学習指導員要綱
- 実施方法:事業コーディネートは「特定非営利法人 静岡県環境カウンセラー協会」に委託
- 利用した団体の内訳、利用者数、指導員派遣数(抜粋:幼児対象)
 - ・実施回数 延べ26回 19施設 (内訳:認定こども園(市立)18回・13施設、認定こども園・保育所・幼稚園等(私立)8回6施設)
 - ・参加人数 1,069人
 - ・指導員派遣数 72人
- 利用の多かった内容など
 - ・自然観察会が65%、リサイクル工作が27%を占めた。
 - ・利用者の評価は、「とても役に立った」96%、「ある程度役に立った」4%であった。

(2) R6年度の取組内容・スケジュール

- ◆こども園等が実施する自然観察会や環境学習会に、環境学習指導員を派遣する。
 - 実施方法:事業コーディネートは「特定非営利法人 静岡県環境カウンセラー協会」に委託
 - ・先着順 派遣数220名まで
 - ・派遣は令和7年2月末まで
 - 事業周知:(1)チラシを作成し関係機関に送付する。
市内教育機関等、小中学校、特別支援学校、こども園・保育所・幼稚園、児童クラブ
(2)広報紙・市ホームページ、市LINEに掲載する
 - 指導員研修:2回実施予定(内容未定)
- ◆環境学習指導員入門講座の実施【再掲】

(3) 市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- ・「しぜんたんけんてちょう」へ環境学習につながるイベント情報を掲載する。
- ・事業全体では、こども園等だけでなく、小学校、中学校、児童クラブ、児童館等へも環境学習指導員の派遣を実施している。

○ R5年度実績

認定こども園・保育所・幼稚園等	開催回数	施設数
うち市立	18回	13施設
うち私立	8回	6施設
その他	0回	0施設
計	26回	19施設

(4) 事業実施にあたっての課題

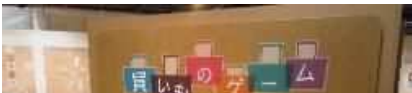
- ・指導員の高齢化に伴う担い手の減少
- ・平日活動可能な指導員が少ない

リーディングプロジェクト	⑤幼児期からの環境教育推進事業	目標	幼児期における自然とのふれあいにより、自然を大切にする心を育み、さらに成長しても自然に対する関心が引き継がれていくよう、幼児期からの環境教育の場、保全活動の機会を提供する。
--------------	-----------------	----	--

No.16

指標名	環境学習の実施回数			担当課		ごみ減量推進課	
指標値	50回／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	沼上資源循環学習プラザにおける環境学習の実施			前戦略からの継続性		継続	
事業目的	植物を利用した体験学習を通して、次世代を担う子どもたちの身近な植物に対する関心喚起と、環境保全意識の高揚を図る。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略3－方針1	その他の関わり	戦略2－方針1／戦略4－方針3			

指標の内容	定義	子ども園、保育園、幼稚園など、幼児を対象とした、沼上資源循環学習プラザにおける環境学習の実施回数を集計
	概要	【実施主体】指定管理者（一般財団法人静岡市環境公社） 【事業内容】 ①実施時期：通年 ②実施場所：沼上資源循環学習プラザ（しずもーる沼上） ③対象者：子ども園、小学校、児童クラブ 等 ④実施内容：植物と雑紙からはがき作り 竹粉を利用したたい肥作り 等 ※環境大学卒業生の講師としての活動の場ともなる。



（しずもーる沼上での環境学習の様子）

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		50回	50回	50回	50回	50回	50回	50回	50回	50回	50回
	実績	76回	45回	85回							
	進捗	◎	○	◎							

NO.16 沼上資源循環学習プラザにおける環境学習の実施

(1) R5年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R5年度実績評価の理由: 計画の指標値を達成したため

・生ごみと竹粉を用いた堆肥作りや、雑がみと植物の繊維を使ったはがき作り、自然に学ぶ環境学習等の出前講座等を開催し、計画に定めた50回を上回る85回実施した。主に小学校、こども園等を対象に行われた、竹粉と生ごみから作ったたい肥を活用し野菜を栽培する実践講座は、身近な自然環境への関心を高めるとともに資源の循環を実感させることができるものとなっており、高く評価できる。



竹粉による生ごみたい肥作り



植物と雑がみによるハガキ作り



自然に学ぶ体験学習

(2) R6年度の取組内容・スケジュール

○各種教育機関等への講座開催及び学習支援の働きかけの実施

- ・学習支援は、竹粉による生ごみ堆肥作り、身近な草本性植物を用いた紙作りによる学習に加え、実際に屋外で生物の不思議な特徴や性質に触れることで、生物多様性や生態系サービスの価値の認識に繋げる自然に学ぶ体験学習を柱としている。
- ・啓発施設及び学習支援の内容の周知のために、こども園の園長会や小学校の校長会等にて施設の魅力と活動内容を発信する。
- ・活動内容については、資料を作成・配布し、学習支援の意義やその効果について教育関係者の関心を得られるよう努める。

○環境保全に関する学習及び体験機会の提供

- ・里山保全や生物多様性の観点から、放置竹林の竹を利用して生ごみ処理を学ぶ竹粉堆肥講座、身近な草本性植物繊維と古紙を材料としたはがき作り講座等を開催し、身近な自然環境への関心を高め、4Rへの意識付けに繋げる。

○各種教育機関との連携による環境学習、学習支援の実施

- ・幅広い4R啓発のため、教育現場に出向き、環境学習及び体験学習の実施を支援する。同時に、自然との関わりや繋がりの中で、次世代社会の在り方を考える学習を提案する。
- ・こども園、幼稚園においては、紙芝居等を行い、ごみ減量、身近な環境について幼少期から考える学習を展開する。
- ・小学校においては、放置竹林の竹を粉にして生ごみと混ぜる堆肥作りを軸とする実践学習を実施する。児童には、放置竹林の現場へ案内を行い、身近な自然環境の変化と問題を認識してもらう。その後、家庭系可燃ごみに含まれる生ごみに関する問題を示す。その中で「気づき」を誘う学習を展開し、複数の環境学習を繋げる発想や、ものの見方や現状を変える考え方の大切さを認識してもらう。

(3) 市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

○親子参加の環境学習イベントの実施

【例】親子で挑戦！～竹で水鉄砲作り～

○こども園や幼稚園、小学校を対象に出張授業の実施

(4) 事業実施にあたっての課題

- ・出張授業について、毎年同じ園や小学校からの依頼多く、新規での授業依頼が少ない。
→令和6年度は児童クラブ、児童館、子ども会に案内を送付し活動の幅を広げていく。

リーディングプロジェクト	⑤幼児期からの環境教育推進事業	目標	幼児期における自然とのふれあいにより、自然を大切にする心を育み、さらに成長しても自然に対する関心が引き継がれていくよう、幼児期からの環境教育の場、保全活動の機会を提供する。
--------------	-----------------	----	--

No.17

指標名	環境大学の修了者数			担当課		ごみ減量推進課	
指標値	15名／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	環境大学におけるリーダー育成			前戦略からの継続性		継続	
事業目的	環境学習を推進するために、環境全般について専門的な知識を習得し、身の回りの環境問題の解決に向かって主体的に取り組む環境学習リーダー・学習支援スタッフを育成する。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略3－方針1	その他の関わり	戦略3－方針2／戦略3－方針3／戦略4－方針3			

指標の内容	定義	環境大学の修了者を集計				
	概要	【実施主体】静岡市(環境創造課)、静岡市沼上資源循環プラザ(しずもーる沼上) 【事業内容】 ①実施時期:6月～2月 ②実施場所:沼上資源循環学習プラザ(しずもーる沼上) ③講座数 :約25講座 ④講座内容:・南アルプスの成り立ちと自然環境 ・静岡市の河川環境 - 川の環境と生物多様性 - ・地域の自然環境を再生する - 生物多様性と地域の環境 - ・SDGsの実践 - 生ごみと放置竹林の問題に取り組む - 等 ⑤卒業後の活動:しずもーる沼上が主催する各種環境学習講座の講師、支援スタッフ (沼上資源循環プラザ(しずもーる沼上))				



【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		15名	15名	15名	15名	15名	15名	15名	15名	15名	15名
	実績	20名	25名	24名							
	進捗	◎	◎	◎							

(1)R5年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R5年度実績評価の理由:計画の指標値を達成したため。

◆実施内容

①6月～2月の期間に全23回(体験活動2回含む)を実施

【令和5年度新規講座】

(1)静岡ガスエネルギーショールーム静岡による「食品ロス削減！はじめよう、エコ・クッキング」

(2)(株)クラダシによる「気軽に楽しく食品ロスの削減に取り組みながら環境問題について考える」

②欠席者向けアーカイブ配信の実施(令和5年度から実施)

③環境大学修了生が講師となって実施する講座への支援(通年)



〈受講の様子〉



〈体験講座・微生物・プランクトンの観察〉



〈体験講座・ミズウオの解剖〉

(2)R6年度の取組内容・スケジュール

○実施予定 6月～2月の期間にて全24回(体験活動2回を含む)を実施予定

【令和6年度新規講座】

(1)花王グループカスタマーマーケティング(株)による『『つくる責任 つかう責任』について考える』

○スケジュール

5月27日 受講申込み切

6月15日 入学式

6月～1月 講義

2月15日 卒業発表・卒業式

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

◆環境大学修了生によるしずもーる沼上での環境学習講座の実施

【実績】

5月5日実施 「竹で水鉄砲作り」

7月29日実施 「海の環境講座～海洋プラスチックを探そう～」

11月24日実施 「里山のツルで籠作り」

12月2日実施 「クリスマス用ランタンを作ろう」

その他 ごみ減量推進課参加イベントのボランティアスタッフ(フードドライブ・ピクニックガーデン等)

(4)事業実施にあたっての課題

・個々に属している団体での活動をしている人もいるが、団体に属していない人の修了後の活動の場があまりない。
→令和6年度は修了生が交流できるようにするため、講義聴講可能日を設け、修了生が一堂に会する場を創出する。

リーディングプロジェクト	⑤幼児期からの環境教育推進事業	目標	幼児期における自然とのふれあいにより、自然を大切にする心を育み、さらに成長しても自然に対する関心が引き継がれていくよう、幼児期からの環境教育の場、保全活動の機会を提供する。
--------------	-----------------	----	--

指標名	「生きもの元気通信」の発行回数 (R6～こども園等への環境教育の実施回数)			担当課		環境共生課	
指標値	4回／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	こども園等に対する環境教育情報の提供			前戦略からの継続性		新規(R4～実施予定)	
事業目的	生物多様性について学ぶ時間のない先生たちに、学んでもらうためのきっかけをつくることで、普段の活動が生物多様性につながっていることを認識してもらい、日々の活動に活かしてもらう						
戦略との関係	主要な関わり	戦略3－方針1	その他の関わり	戦略3－方針2／戦略4－方針3			

定義	子ども園や幼稚園等に向け発行する「生きものの元気通信」の発行回数 (R6～ 子ども園等への環境教育の実施回数)
概要	【実施主体】静岡市(環境共生課)、R6～受託者(講座運営) 【事業内容】 ①実施時期:年4回程度 ②発信内容:・教育・保育の中で簡単に組み組める環境学習のプログラム ③対象:市内のこども園、保育所、幼稚園等 R6～ ①実施時期:通年 ②実施内容:教育、保育の中で簡単に組み組める環境学習プログラムの講座、研修、事例紹介 ・環境学習指導員入門講座 ・子ども園での自然あそび促進事業 ・生きものの元気通信発行等 ③対象:市内の認定こども園、保育所、幼稚園の先生、環境学習指導員等

＜環境学習指導員入門講座＞

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		4回	4回	4回	4回	4回	4回	4回	4回	4回	4回
	実績	体制整備	4回 (6回)	1回 (3回)							
	進捗	○	◎	△	()内は、通信の発行回数+入門講座1回、研修実施1回を加えた数						

(1) R5年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R5年度実績評価の理由:計画の指標値の8割に到達しなかったため

◆環境学習指導員入門講座の実施 (R5新規事業)

○目的:幼児を対象とした環境教育の基礎を学び、現環境学習指導員のスキルアップや新たな環境学習指導員の育成を目指す。(すべての講座を受講した物は、指導員に登録できる)

○期間:5月～10月【全8回】

○内容:環境教育の基礎、安全管理、幼児対象プログラムの考え方、企画の立て方・実践、OJT研修

○講師:認定NPO法人しずおか環境教育研究会[エコエデュ]、環境学習指導員

○参加者数:6名

◆協働パイロット事業 若手先生がもう一歩進める!地域人材と連携してできる!「いつもの保育に自然体験を」研修 (R5)

○目的:市内幼稚園・保育園・こども園等に対し環境教育の実践による人材育成と動画発信を実施し、幼児教育現場で自然体験教育スキルを向上させる。

○日時・場所:①10月17日(市立上土こども園)、②10月19日(市立中村町こども園)、③11月22日(市立横砂こども園)

○受託者:特定非営利活動法人しずおか環境教育研究会(エコエデュ)

○内容:環境教育の実践による人材育成

○参加者:①担任2名、副園長、保育教諭5名、環境学習指導員1名

②担任3名、園長、副園長、保育教諭5名 環境学習指導員1名、③担任5名、保育教諭5名、環境学習指導員3名

◆生きものの元気通信

○令和5年度発行にむけ、テーマの検討、各施設への取材(写真・動画撮影)等を行った。

・テーマの検討に当たっては、令和2年度から本市企画課を通して、都市圏が抱える各種課題について、各大学等が持つ知識・経験を活用し、市町と連携・協働してその解決を図る「地域課題解決事業」に応募し、「幼児期における生物多様性学習プログラムの開発」をテーマに大学と協働し取り組んだ。

(2) R6年度の取組内容・スケジュール

◆環境学習指導員入門講座(R5～)

○目的:幼児を対象とした環境教育の基礎を学び、現環境学習指導員のスキルアップや新たな環境学習指導員の育成を目指す。(すべての講座を受講した者は、指導員に登録できる)

○時期:6月～12月【全8回】

○内容:環境教育の基礎、安全管理、幼児対象プログラムの考え方、企画の立て方・実践、OJT研修

○講師:特定非営利法人 静岡県環境カウンセラー協会、環境学習指導員

○受講者数:13名

◆こども園での自然あそび促進事業 ※R4、R5は協働パイロット事業として実施、R6より環境共生課にて事業化

○目的:こども園に対し環境教育を実践し、保育教諭及び静岡市環境学習指導員の自然体験教育スキルを向上させる

○時期:令和6年9月～12月頃

○内容:市立こども園2園にて環境学習プログラムを実施、実施園以外の保育者、環境学習指導員から見学者を募る

○講師:特定非営利活動法人しずおか環境教育研究会(エコエデュ)

◆生きものの元気通信

○実施時期:年2回程度

○実施内容:しずおか中部連携中枢都市課題解決事業において、「幼児向け環境学習プログラムの開発・実践」を課題として応募した。マッチングした県内大学取り組む予定。

○送付先 市内未就学児施設 233園(うち私立認定こども園等175園、市立認定こども園等58園)

(3) 市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- ・市内のこども園等で実際に子どもたちが取り組んでいる姿を取材する。
- ・新たに環境学習指導員となる人材を養成する。

(4) 事業実施にあたっての課題

- ・幼児教育・保育の現場で取り組みやすい環境学習の題材選びに検討が必要であり、幼児教育・保育の現場の反応を効果的に確認する方法の検討。

リーディングプロジェクト	⑥環境モニタリング等の市民参加推進事業	目標	自然観察会や講習会で、生きものの特徴やモニタリング手法を学べる機会を作り、市民の関心を高め、市民によるモニタリング体制を整備します。また、市民の活動継続意欲を高めるために、報告を評価する仕組みや、専門家と関わる機会を提供します。
--------------	---------------------	----	--

No.19

指標名	水のおまわりさん参加者数			担当課		環境共生課	
指標値	1,000名／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	水生生物のモニタリング調査			前戦略からの継続性		新規(既実施事業)	
事業目的	市民調査員による河川の水質調査を通して、市民の身近な河川環境に対する関心喚起と環境保全意識の高揚を図るとともに、市内の水生生物の生息状況を把握する。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略4－方針1	その他の関わり	戦略2－方針1／戦略3－方針1／戦略3－方針2			

指標の内容	定義	「水のおまわりさん」に参加した人数を集計				
	概要	【実施主体】市民調査員(毎年応募) 【事業内容】 ①調査方法:「簡易水質検査」(水質を色で判定する試薬を用いた調査) 「水生生物調査」(指標生物の種類や数を調べる調査) ②調査場所:市内の河川 ③対象者 :小学生以上 ④調査結果:報告書の一覧表を市のHPで公表 ⑤費用 :調査キットは市が購入 ※関連事業:「全国水生生物調査」(環境省・国土交通省)				



【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		1,000名	1,000名	1,000名	1,000名	1,100名	1,200名	1,200名	1,200名	1,200名	1,200名
	実績	1449名	931名	977名							
	進捗	◎	○	○							

No.19 水生生物のモニタリング調査

(1)R5年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R5年度実績評価の理由:計画の指標値の8割を達成したため

- 実施方法 (1)対 象 者 市内に住む小学生以上のグループ
(2)調査内容 ① 水生生物調査…川底の水生生物の種類や数を調べる
② 簡易水質調査…試薬を使い川の汚れを色で判定する
(3)実施期間 令和5年7月1日(土)～令和5年10月31日(火)
(4)募集期間 令和5年6月1日(木)～令和5年9月29日(金)
- 参加者 (1)参加団体数 21団体
(2)延べ調査回数 29回
(3)延べ参加者数 977人
- 調査結果 (1)市ホームページ上にて、実施者別の結果一覧を公表
(2)年度ごとの調査結果のうち、調査件数の多かった次の河川ごとにまとめた調査結果を公表
安倍川、藁科川、興津川、庵原川、巴川、黒川

(2)R6年度 of 取組内容・スケジュール

- 実施方法 (1)対 象 者 市内に住む小学生以上のグループ
(2)調査内容 ①「水生生物調査」…川底の水生生物の種類や数を調べる
②「簡易水質調査」…試薬を使い川の汚れを色で判定する
(3)実施期間 令和6年7月1日(月)～令和6年10月31日(木)
(4)募集期間 令和6年6月3日(月)～令和6年9月30日(月)
(5)報告め切 令和6年11月15日(金)まで
- 周知方法 (1)チラシを作成し関係機関に送付する。
ア 市立小・中学校
イ 児童館
ウ 生涯学習施設
エ 市立図書館
オ 静岡科学館
カ 各庁舎
(2)広報紙・市ホームページに掲載する。

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- ・調査の主体が小学生以上の市民である。
- ・調査の様子を視察し、「しぜんたんけんてちょう」で紹介している。

(4)事業実施にあたっての課題

- ・より関心を高めるために、報告された内容を河川ごとにまとめ、毎年の変化を比較する等データの活用方法の検討

リーディングプロジェクト	⑥環境モニタリング等の市民参加推進事業	目標	自然観察会や講習会で、生きものの特徴やモニタリング手法を学べる機会を作り、市民の関心を高め、市民によるモニタリング体制を整備します。また、市民の活動継続意欲を高めるために、報告を評価する仕組みや、専門家と関わる機会を提供します。
--------------	---------------------	----	--

No.20

指標名	環境学習参加者数			担当課		環境共生課	
指標値	100名／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	自然観察会における生きもの調査			前戦略からの継続性		新規(既実施事業)	
事業目的	東海大学との共催により自然環境学習会を実施し、身近な自然環境への関心喚起と環境保全意識の高揚を図るとともに、生物生息状況の経年変化を調べる。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略4－方針1	その他の関わり	戦略2－方針1／戦略3－方針1／戦略3－方針2			

指標の内容	定義	東海大学との共催事業である「渚の植物観察会」「プランクトン観察会」「シロウオ観察会」の参加者数を集計				
	概要	【実施主体】静岡市(環境共生課)・東海大学海洋学部 【事業内容】 ①講座名 ◆渚の植物観察会(三保松原周辺) 内容:砂浜に生息する植物の観察 ◆プランクトン観察会(三保地区内海側) 内容:海のプランクトンの採集と観察 ◆シロウオ観察会(庵原川) 内容:シロウオの採集と観察 ②対象者:小学3年生～中学生と保護者 ③費用 : 資材等は市で購入 ※東海大学連携事業				



(「プランクトン観察会」の様子)

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		100名	100名	100名	100名	100名	100名	100名	100名	100名	100名
	実績	43名	78名	96名							
	進捗	△	△	○							

No.20 自然観察会における生きものの調査

(1) R5年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R5年度実績評価の理由:計画の指標値の8割を達成したため

◆プランクトン観察会

- 実施日:令和5年8月3日(木)
- 参加者:43人(小学3～中学生…27人、保護者…16人)
- 内 容:プランクトンの採集、活性汚泥についての講義、観察、プランクトンについての講義、観察



R5年度 プランクトン観察会

◆シロウオの観察会

- 実施日:令和5年3月9日(土)
- 参加者:38人(小学3～6年生…21人、保護者…17人)
- 内 容:シロウオについての講義、チリメンモンスター探し



R5年度 シロウオ観察会

◆渚の植物観察会

- 実施日:令和5年10月21日(土)
- 参加者:15人(小学3～6年生…5人、保護者…5人、付き添い等5人)
- 内 容:海浜植物についての講義、浜にて海浜植物の観察、塩生植物・海浜昆虫の観察



R5年度 渚の植物観察会

(2) R6年度 of 取組内容・スケジュール

◆プランクトン観察会

- 実施予定日:令和6年8月6日(火)
- 内 容:プランクトンの採集、活性汚泥についての講義、観察、プランクトンについての講義、観察

◆渚の植物観察会

- 実施予定日:令和6年8月5日(月)
- 内 容:海浜植物についての解説、海浜植物の観察

◆シロウオの観察会

- 実施予定日:令和6年3月(詳細未定)

(3) 市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

◆プランクトン観察会

- ・東海大学海洋学部と共催し、小学生及びその保護者が受講している。

◆シロウオの観察会

- ・東海大学海洋学部と共催し、小学生及びその保護者が受講している。

◆渚の植物観察会

- ・東海大学海洋学部と共催し、小学生及びその保護者が受講している。

(4) 事業実施にあたっての課題

- ・熱中症対策(プランクトン観察会、渚の植物観察会)

リーディングプロジェクト	⑥環境モニタリング等の市民参加推進事業	目標	自然観察会や講習会で、生きものの特徴やモニタリング手法を学べる機会を作り、市民の関心を高め、市民によるモニタリング体制を整備します。また、市民の活動継続意欲を高めるために、報告を評価する仕組みや、専門家と関わる機会を提供します。
--------------	---------------------	----	--

No.21

指標名	市民生きもの調査員の登録者数 (R6～生きもの調査延べ参加者数)			担当課	環境共生課
指標値	300名/年			時点	目標年度
事業	市民参加による生きもの調査			前戦略からの継続性	新規(R4～実施予定)
事業目的	簡単に判別できる身近な動植物を指標種とし、市民による生きもの調査を実施することで、市民の生きものへの関心喚起と環境保全意識の高揚を図るとともに、市内の生きものの生息状況の情報収集を行う。				
戦略との関係	主要な関わり	戦略4－方針1	その他の関わり	戦略1－方針3/戦略2－方針1/戦略2－方針2 戦略3－方針2/戦略3－方針3/戦略4－方針2	

指標の内容	定義	市主催の生きもの調査延べ参加者数を集計 (R6～市主催の生きもの調査延べ参加者数を集計)			
	概要	【実施主体】静岡市(環境共生課) 【事業内容】 ①調査時期:通年(※指標種により異なる) ②調査場所:市内全域 ③指標種:(要検討) ④調査員:市のHPや広報にて募集 ⑤調査結果:報告書を取りまとめ市のHPで公表			



<市民生きもの調査員養成講座の様子>

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		体制整備	体制整備	体制整備	300名	300名	300名	300名	300名	300名	300名
	実績	体制整備 (28名)	体制整備 (38名)	体制整備 (125名)							
	進捗	○	○	○	()内は市主催の生きもの調査延べ参加者数						

No.21 市民参加による生きものの調査

(1)R5年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R5年度実績評価の理由:体制整備中であり、事業を試行的に実施したため

- ◆「静岡シズンカレッジこ・こ・に」の登録講座として、「市民生きものの調査員養成講座」を実施。
 - 事業の目的
 - ・専門家と共に実際に調査を行い生きものの見分け方やモニタリング手法を学ぶことで、市内に生息する多種多様な生きものの調査を実施できる人材の養成を目指す。
 - 受講生が目指す姿
 - ・市民が生きものについて学べるきっかけを作り、①生物多様性への関心を高めると共に、②生きものの見分け方や調査方法について学ぶことで、卒業後に③生きものに関する情報収集や報告をしてもらう。さらに、各分野における団体の活動を講座内で情報提供することで、興味を持った分野を扱っている団体に所属するなど、④今後の活動につなげてもらう。
 - 全体概要
 - ・対象:高校生以上20名が講座を修了し、全員が市民生きものの調査員に登録
 - ・会場:第1回～第6回講義…あさはた緑地センターハウス会議室、演習…麻機遊水地第1～4工区のいずれか
 - 各講座実施日・内容(全6回)
 - ・6/11第1回(植物)、6/17第2回(鳥類)、7/15第3回(魚類)、7/29第4回(爬虫類)、9/16第5回(昆虫)、9/30第6回(ほ乳類)
- ◆令和4年度から、「市民生きものの調査員」登録制度を開始
 - ・令和5年度末現在 登録者数52名
- ◆市民生きものの調査員による「魚類調査(巴川水系)」「モニタリングサイト1000里地調査カヤネズミ調査(秋)」を麻機遊水地で実施

(2)R6年度 of 取組内容・スケジュール

- ◆静岡シズンカレッジこ・こ・に「市民生きものの調査員養成講座」を実施
 - 全体概要
 - ・受講生:高校生以上 25名が受講中(うち大学生1名、高校生4名)
 - ・会場:講義…あさはた緑地センターハウス会議室、演習…麻機遊水地第1～4工区のいずれか
 - 各講座
 - 6/1第1回(植物)、6/15第2回(鳥類)、6/29第3回(魚類)、7/13第4回(両生類・爬虫類)、9/14第5回(昆虫)、9/28第6回(ほ乳類)
- ◆モニタリングサイト1000里地調査の一般サイトとして、令和5年度から5年間、「カヤネズミ」の調査を実施する【再掲】
 - 初夏:令和6年6月8日(土) ○参加者:市民生きものの調査員9名 ※今回からカヤネズミの生息環境保全のための植生調査を実施
 - 秋 :令和6年11月頃を予定
- ◆「市民生きものの調査員」による麻機遊水地での「魚類」調査
 - 秋:令和6年10月頃を予定
- ◆「市民生きものの調査員」による南アルプス生きものの調査【再掲】

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- ◆静岡シズンカレッジこ・こ・に「市民生きものの調査員養成講座」、「市民生きものの調査員」登録制度
 - 「生きものの調査員養成講座」にて市民の応募者から選考された受講生を生きものの調査員として活動できるよう養成している。
- ◆麻機遊水地での指標種の調査
 - 養成講座を受講し、「市民生きものの調査員」に登録した市民に、市民生きものの調査員としての活動の場を提供している。
- ◆「市民生きものの調査員通信」
 - 「市民生きものの調査員通信」にて、市主催事業だけでなく、関係団体及び調査員からの依頼によるイベント等の周知を行っている。

(4)事業実施にあたっての課題

- ・市民生きものの調査員と行う麻機遊水地での指標種のモニタリングの時期、実施方法の検討の必要がある。
- ・市内全域で生きものの調査を行う場合、指標種の選定、実施方法の検討の必要がある。